

中川にとって裁判を超えるものがあつた。た。映画は、唐随一の高僧 目にして渡航に成功した を呼びかけた。

都内で開催 2100 人来場

会場は明るい雰囲気

人生をどう終えるかー 無料相談所、花屋、仏具屋など様々。変わり種ではパソコンを使った自

分史作成の講座が。仏教界からは天台宗安養院(品川区)の可動式納骨堂「ひかり陵苑」と真宗大谷派證大寺(江戸川区)の2カ寺が

主催は一般社団法人終活カウンセラー協会。終活を主題にした大型イベントは初だという。

◎ ◎ ◎ 死をテーマにした催事ながら、会場の雰囲気は異様なまでに明るく、賑わっている。ユニフォームを着たスタッフが元気に案内し、来場者の相談に乗る。全40ブースは葬儀社、遺品整理会社、終活写真専門スタジオ、相

対入れている。妻もここに生きていますから」と明言し、葬儀は小規模

でいいが導師はその寺の住職にしてもらいたいと考えている。「戒名だってもちろん頂きたい」とは言うが「娘夫婦にその寺の檀家のままでいるとはとうてい言えない。遠いし、お寺とのつきあひもないのに」と漏らす。

都内在住の60代女性Bさんは友人女性Cさん(60代)と来場。今は達者ではあるが、人間いつ何があるかわからないのでやってきたという。展示で特に興味を惹かれたのは「終活専門写真」で、「年をとってからの変な

70代男性 妻の葬儀 150万「大変な負担」



湯灌実演・入棺体験といったユニークなコーナーも

きあいがあるんでしょ? 寄付をとられたり」と厳しい意見。とはいえ信心が希薄なわけでもなく「お寺や神社は好きですよ、善光寺や清水寺には行きましたし」。

「たまたま駅前であらゆる配っていたので、暇つぶし半分で来ました。意外に面白かったです。子どもも遊べるコーナーがあったし。入棺体験も話の種になります」と語る子ども連れ30代女性Dさん。「一番気になるのは相続。父も母もまだまだ元気で暮らしていますし、そんなに財産もないと思うんですけど」と笑うものの、弟がいるので、と若干の心配をみせる。「病気で倒れた時の保険や葬儀費用も気になります。ママ友の話を聞く

の新しい形の埋葬が多く出展されていたのを見て「もう少し色々考えなきゃね」と話した。ただ、伝統的な寺院墓地にはあまり魅力を感じないという。「お寺って、何かとつ

元気な時にいい写真を

60代女性

と正直、直葬で済ませたい! と思っちゃいますね」とハッキリ。「この子が大学に入る頃に両親は80歳くらい。その頃に死なれたら一番困ります」と本音をこぼす。「仏壇だって、家がマンションで狭いのに大きなものは無理。手元供養でいいんじゃないかな」とも率直に話した。菩提寺を尋ねると「真言宗のお寺だったはずですけど」とぼんやりとした答えだった。展示と人々の声から、伝統的な葬と供養の形式が急速に変化している現状を痛感。それは寺檀関係の希薄化、死生観の變化、経済格差などに起因しているようだ。仏教界もまた因循姑息に過ごすだけではない。死に向き合うことに関心が高まっているのなら、そこに仏教が果たす役割は小さくないのだから。